



あなたは毎日、自分の中の子どもを職場に連れてきている

2026 年 8 月 19 日 | 執筆: Michelle Adams

組織の中で、影響力を持っている人、あるいはフォロワーがいる人は、誰でもリーダーです。ただし、このブログでは、あなたが公式にリーダーとして認められている、という前提で話を進めます。

そしてリーダーであるあなたは、グループのメンバー一人ひとりの「過去のインナーチャイルド(内なる子ども)」を引き継ぐことになります。

同様に、あなた自身も、自分のインナーチャイルドを職場に持ち込んでいます。

私たちは誰もが、子どもだった頃の歴史を持っており、親、祖父母、学校の先生、コーチ、スカウトリーダー、ピアノの先生など、さまざまな大人たちとの数多くの人間関係に、密接に関わってきました。

これらの大人たちは皆、私たちが子どもだった頃、私たちに対して力と権威を持っており、そのほとんどが、それを頻繁に行使していました。子どもは皆、こうした「権威を持つ人物」に対処するために、さまざまな行動を試します。その対処法の中には、うまくいくものもあれば、うまくいかないものもあります。

うまくいった対処行動は、繰り返し使われるようになり、やがて、自分をコントロールし支配しようとする、他のすべての大人に対する習慣的な反応となっていきます。人は自然に、このような組み込まれたネガティブな反応のパターンに頼るようになります。それは、子どもの頃に学んだものだからです。

こうした対処のメカニズムは、子どもが思春期を迎えたからといって、あるいは大人になったからといって、単純に消えてなくなるわけではありません。それらは大人の人格の不可欠な一部として残り続け、力や権威を持つ誰かとの関係に入るたびに、意識的に呼び出されたり、無

意識のうちに引き起こされたりします。

つまりリーダーであるあなたは、チームメンバーのインナーチャイルドの反応をマネジメントしなければならないだけでなく、自分自身の子ども時代の「荷物」にも向き合わなければならないのです。

あなたは、生涯を通じて習慣的に使われることで身についた、まさにその対処のメカニズムを、自分自身が使っていることに気づくかもしれません。

- ・もしあなたが、泣き止まないと親に叩かれるという経験をしていたなら、あなたは感情を表に出したがないかもしれません。

- ・もしあなたに、あなたのことをよく批判する年上のきょうだいがいたなら、あなたは判断されることを恐れて、アイデアを言い出すことをためらうかもしれません。

- ・もしあなたの親が、あなたによく「ちゃんとしなさい」と怒鳴っていたなら、あなたはリーダーとして、チームに自分の望むことをさせるために、同じ「怒れる親」を自分の中から呼び出していることに気づくかもしれません。

こうしたことは、他にも次々と続いていきます。

私たちは皆、子ども時代からの隠れた「悪魔」を抱えており、職場に来るときにそれを家に置いてくるわけではありません。

そこに、一つの課題があります。

あなた自身を含め、ほとんどの人が、健全で信頼できる雰囲気をつくるための備えを十分に持っていないとき、あなたと組織はどうすれば最高の状態で機能できるのでしょうか? どうすれば、あなたも他の人たちも、互いに敬意を持ち、正直に関わり合えるように、自分自身と他者をマネジメントできるのでしょうか?

良いニュースは、その「子ども」とつながり、新しい在り方を学ぶ意志さえあれば、選択肢はある、ということです。

(このブログは、トーマス・ゴードン博士のL.E.T.の書籍、第2章の内容をもとに構成されています。)